

(2) 何を ※Web問題, 学習プリント問題 ※新規: デジタルドリルの活用

- 国語 (読むこと, 書くこと, 話すこと・聞くこと) →過去問題, アシストシート等 (漢字, 文法) →これまでに習った漢字, 文法問題
- 社会 (学習の要点まとめ, 自作問題による練習)
- 算数 (テスト結果に基づく個に応じた問題練習, ドリル)
- 理科 (学習の要点まとめ, 自作問題による練習)
- * 昨年度までの鹿学定過去問題 (12月中旬実施予定)

R4~新規; デジタルドリルの有効かつ効果的な活用方法

アナログ学習指導 (計算ドリル帳, 漢字ドリル帳) と デジタル学習指導の有効な組合せ方等については, 来年度の職員研修 (全体研修) で実践を通して検証していく。

【子ども・教科・学校レベル】学習課題の置き方
子ども・教科・学校全体の平均進捗率(上位:平均以上, 中位:平均並, 下位:平均以下)に応じた学習課題をどのように考えたらよいか?

学習課題	【基礎・基本】 読み・書き・計算等の 知識・技能・態度等 A問題(主に知識)	【応用・活用力】 自ら考え力 がある問題 B問題(主に活用)	【その他】 家庭・地域との連携 学校の教育環境等 学習者
上位層 子ども・ 教科・ 学校	重点	重点	家庭学習ノートの活用 ③より少数指導 活動活動との両立 学習者
中位層 子ども・ 教科・ 学校	重点	重点	家庭学習 家庭学習指導 家庭学習の環境も 関心して行う。
下位層 子ども・ 教科・ 学校	重点	重点	※どれだけ個別最適 化された学習課題を 与えられるか。

これまでの取組と今後の研究の方向性
「確かな学力」: 知育: 校訓かしくく
すべての教科領域で情報活用能力を基礎にして育成する

デジタル学習指導 (学習者用デジタル教科書等, タブレット端末, デジタルドリル, AI教材, ロボット, テレト会議システム等)
アナログ学習指導 (紙の教科書, ドリル, 教科ノート, 家庭学習ノート等)

(3) どのように (指導方法, 分担等)

- 正課授業 (国語, 社会, 算数: 担任, 理科: 専科による指導)
R4~新規: 来年度の専科配当計画 (案) を参照
- ベーシックタイム (担任, 専科, 管理職などTT体制)
R4~新規: 毎週火曜日 15分×35回=525分
R4~新規: 毎週木曜日 15分×35回=525分 } 計 1050分
- 土曜日●校時チャレンジタイム (担任, 専科などTT体制)
R4~新規: 第2土曜日 45分×9回=405分 計 405分

(4) その他

R3~○ 学力向上委員会

学期1回から職員会議後に月1回に変更
→指導状況とテスト結果報告, 家庭学習課題内容等の情報交換
学力検査結果の分析及び今後の対策等の協議, 共通理解等

R3~○ 学校における教育活動, 教育環境, 掲示等の充実

→家庭学習ノートの全学年掲示→模範的な家庭学習ノートを校長室前に常設展示。チーム学校で低中高学年の系統的な指導をそろえて取り組んでいることを保護者, 地域, 来校者等に示す。

※教職員はR4教育課程に家庭学習の模範的例を入れて共通理解する。
保護者へは第1回PTAの際に学級経営方針とともに各学年の家庭学習レベルを説明する。

継続○ 学習のしつけ(発表話型, 挙手の仕方, 聞き方, 姿勢など)の徹底
授業の基盤となる学習のしつけを学期始めに徹底する週間を設定

継続◎ 家庭学習ノートの様式の見直し※煩雑にならず使い勝手がよいもの
→今年度の学力の実態に基づき, 定着率の低い知識・理解事項については, 年間を通じて積み上げられるような様式に見直す。

(例)ローマ字が書けない→毎日ローマ字を書くための罫線枠を追加
→系統性を踏まえた様式に見直す。
(例)保護者の見届け枠, 使った漢字数, 友だちのよさを書く枠
ノーメディアタイム, 早寝早起き朝ごはん等の振り返り枠

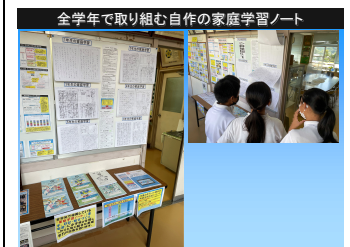
◆きめ細やかな指導体制

6年1組 社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」1月27日
つかむ → 見出す → 調べる・考える → 活用
学習者用タブレット端末から閲覧したデータから児童用タブレットへ資料データをコピーで配信
①: 1人に1台の学習
②: 1人に1台の学習
③: 1人に1台の学習
④: 1人に1台の学習

6年2組 国語科「筆者の考えを読み取り, 社会と生き方について話し合おう」2022年02月09日
調べる・考える → 深める → まとめる
児童用タブレット端末から閲覧したデータから児童用タブレットへ資料データをコピーで配信
①: 1人に1台の学習
②: 1人に1台の学習
③: 1人に1台の学習
④: 1人に1台の学習

【学力向上】デジタルドリルを活用した学力補充指導を行っています。2022年02月09日
6年4組では「デジタルドリル」を活用しての指導が行われていました。現在, 学校では「デジタルドリル」を個別に活用する取組をしています。アナログ方式のドリルとデジタルドリルのそれぞれの長さを確認しながら, どのようにアナログ学習とデジタル学習を融合させていくかについて研究しています。

◆1年生から積み上げていく系統性を重視した家庭学習ノートの活用



◆漢字, 日記, 宅習(3点セット)を必ず課題に課して提出, 目安時間: 学年×10+20分の時間に適した分量の課題